

再スタート3年目の“Fukuoka”、世界へ走り続けるランナーたち

福岡で優勝経験があるギザエと吉田。 吉田は青学大に練習拠点を戻して再生

スズキからは前身の福岡国際マラソン選手権を含め、2回の“福岡”優勝経験があるマイケル・ギザエがチームの後輩のヴィンセント・ライモイとともに今年も参戦。GMO インターネットグループの吉田祐也は実業団1年目の20年大会に優勝。今年から母校の青学大に練習拠点を移して復調している。

●3回目の優勝を目指すギザエの“福岡”への思い

ディフェンディング・チャンピオンのマイケル・ギザエ(スズキ)が、今年も師走の博多を疾走する。福岡第一高出身で、スズキ入社1年目の15年福岡国際をペースメーカーとして走った。16年13位、17年8位、19年5位、20年4位と成績を上げ、前身の福岡国際マラソン選手権最後の21年大会に2時間07分51秒で優勝を飾った。

22年にスタートした今大会で3位、そして昨年2時間07分08秒の自己新記録で、楊紹輝(中国)と1秒差の接戦を制した。昨年のレース後に“福岡”への思いを次のように話した。「2年前は最後の“福岡”と思って優勝できましたが、大会がなくなるのはちょっと悲しかった。もう1回“福岡”が始まるとニュースで知ったときはうれしかったです。去年(22年)、ディフェンディング・チャンピオンになりたかったけど3位でした。でも自己ベストが出てうれしかった。今年また優勝できて、良い成長ができています」

例年、マラソン以外のレースにはほとんど出場しない選手。今季の海外レースの結果からは必ずしも好調とはいえないが、スズキの藤原新ヘッドコーチは「練習はできている」という。「毎年、厳しい戦いになると予想していても、福岡では良い走りをしてきました。今年も福岡が近づいて体が絞れてきましたね。そういうときのマイケルは強いです。12:10スタートですから後半が暑くなったりして、タフさが求められるレースになれば今年も勝機はあると思います」

スズキからはヴィンセント・ライモイも3年連続で出場する。初マラソンだった22年大会2位、昨年5位と、先輩のギザエ同様福岡で強さを見せる。

スピードがある反面、故障もしやすい選手。今年2月の大阪を途中棄権したのは、昨年の福岡国際で傷めた大腿裏の故障が再発したからだった。昨年の福岡国際も「練習はほとんどジョグで出場した」と藤原ヘッドコーチ。「練習はあえて抑えめのペースで行ってきましたが、余裕を持って最後はしっかりと上げてきます。福岡では2時間7分を切れるかもしれません」

ヴィンセント自身は一昨年に2位になった際、「オリンピック・チャンピオンになりたい」と、世界で戦う強い意思を示した。

国内実業団チーム在籍のケニア人選手が、福岡国際マラソンをステップにオリンピックや世界陸上で活躍した例はいくつもある。福岡国際から世界へ。そのパターンをスズキ・コンビが引き継ぐ。

●4年前の福岡国際優勝時以上の走りも予想される吉田

吉田祐也はマラソン2回目まで、飛ぶ鳥を落とす勢いだった。

初マラソンは青学大4年時。箱根駅伝4区を区間新で走った1カ月後の別大を、2時間08分30秒で走った。当時の初マラソン日本歴代2位、学生歴代2位という快記録だった。2回目の福岡国際は歴代〇位という記録にはならなかったが、23歳の若手が国内メジャーレースで優勝したことは日本マラソン界に衝撃を与えた。

ところが3回目から勢いがなくなり、昨年の東京とMGC(マラソン・グランドチャンピオンシップ)では低迷した。

「MGCは練習のやり過ぎでした。走り込むことが目的になってしまって、レースで結果を出すことにつながっていませんでした」

今年1月から練習拠点を青学大に移し、同大の原晋監督に練習を見てもらっている。すぐに結果が現れ、2月の大阪で2時間06分37秒と自己記録を更新した。大阪のレース後に「順番で結果を残すことを考えて、練習にめりはりをつけられたことがはまったと思います」と話していた。

11月3日の東日本実業団駅伝1区(11.6km)では、独走で区間賞を獲得。レース後に青学大での練習について以下のように話した。

「学生の頃にやっていたことの延長でやった方が、自分に合っていると思います。(距離重視とかスピード重視ではなく) バランス重視でやっています」

学生たちと一緒に練習し、それにプラスして独自の練習を行う。その練習が学生とは大きく違うようだ。

東日本実業団駅伝の際にこの冬のマラソンの目標を、「優勝して東京世界陸上代表に内定すること」とコメントした。代表内定は3月以降になるが、福岡で2時間06分30秒の世界陸上参加標準記録を突破し、さらに強さをアピールすれば代表に大きく近づく。

4年前の福岡での快走を上回る驚きを長距離界に与えるかもしれない。

■マラソン全成績 = 吉田 祐也

回数	年	月日	大会	全体順位	日本人順位	記録	中間点通過
1	2020	2.02	別大	3	1	2.08.30.	1.04.05.
2	2020	12.06	福岡国際	1	1	2.07.05.	1.02.55.
3	2022	3.06	東京	24	17	2.09.20.	1.02.33.
4	2022	10.02	ツインシティ	1	1	2.11.28.	-
5	2023	3.05	東京	35	23	2.12.09.	1.02.12.
6	2023	10.15	MGC	50	50	2.19.47.	1.04.09.
7	2024	2.25	大阪	4	3	2.06.37.	1.02.48.